令和５年度香川大学卒業式 学長告辞

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた６学部、１１９８名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、ご家族や関係者の皆様方にも心からの祝意とともに、学生達の勉学を今日までご支援頂いたことに対し、感謝の意を表します。香川大学校友会や各学部同窓会の関係者の皆様には、様々な形で彼らの学生生活を支えて頂いたことに、改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの多くは２０２０（令和２）年４月に香川大学に入学されました。その年の始めから我が国でも流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」に私たちは強い危機感を覚え、国を挙げて感染拡大防止のための行動制限が始まり、人と人が接触する機会が極端に減りました。入学式が学部ごとの実施という変則的な形で行われたのに続いて、授業もオンラインによる遠隔授業が中心となりました。半年か１年で終息に向かうという期待もむなしく、流行は拡大と縮小を繰り返しながら３年余り続き、昨年５月に、感染法上の５類に位置付けられたことによってようやく日常生活が戻って来ました。この間、実習や演習など、人同士が接する機会の多い授業や、サークル活動を始めとする課外活動は大きく制限され、会食やイベントも中止や規模の縮小を余儀なくされました。アルバイト先がなくなるなど、経済的に苦境に陥った学生さんも少なからずおられたことでしょう。

　このような困難のなかにあっても、懸命に勉学に励まれ、今日の日を無事、迎えられた学生の皆さんに敬意を表するとともに、その間、大学として十分な教育の機会を提供できなか

ったことを申し訳なく思っています。

さて、卒業後、皆さんが活躍される社会とはどのようなものでしょうか。さまざまな課題が指摘されていますが、私は、①人口減少、②地球温暖化、③人工知能の発達 の３つを取り上げたいと思います。いずれも人類史上まれにみる大事件であり、そのようなことが同時に進行しているという点で、私たちはまさに歴史の転換点に居ると言えます。

わが国の人口減少の主要な原因である少子化については、生活をさまざまに楽しむ機会が増えたことで、次世代よりも現役世代を、集団生活よりも個人生活を優先する傾向が強まったことが一因と考えられます。地球温暖化については、快適な生活を維持するためのエネルギーを石炭や石油のような化石燃料に依存してきたことが主な原因とされています。そして、ChatGPT などの「生成 AI」については、人手不足の解消に役立つ一方、頭脳労働を奪い、やがては人間をも支配するのではないかという恐怖を抱かせるほど高性能です。そして、これらすべての変化が速すぎて、社会がうまく適応できていないことが、事態を一層深刻にしているのではないかと思慮されます。

これらの課題は、すべてではないにせよ、私たちが豊かな生活を享受するのと引換えに、ある種、必然的に発生したものと考えられることから、私たち皆が英知を結集して解決に向けて取り組むべきだと思います。

このような激変する社会で求められている人物像ですが、既成概念にとらわれず、柔軟に発

想することにより、課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動できる人物であることは、多くの識者が指摘するところです。今ほど若者が期待されている時代はないと思います。それは、ただ単に人手不足を解消するためではなく、若者の持つ新しい視点や、変化に対する適応力や行動力でもって、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会変革の担い手となることが大いに期待されているからです。

皆さんは、香川大学で専門分野の学問を究めつつ、勉学以外でも、学内外でさまざまな経験を積むことにより人間的にも成長し、社会が期待するポテンシャルを持って卒業を迎えられているに違いありません。在学中に知り合った教員や友人、先輩後輩たちとのネットワークはこれからも貴重な財産となるはずです。今後、さまざまな困難にぶち当たることもあるかもしれませんが、ひとりで悩まず、このネットワークを大いに活用して、困難を乗り越えて下さい。

大学卒業はこれまで、小学校・中学校・高校・大学と長く続いた学校生活の完結を意味します。集団生活が基本の学校では、敷かれたレールの上を同じ方向に走ることも多く、他人と比較して劣等感を抱いたり、苦手科目でストレスを感じたりと、自分に自信を持てないこともあったのではないでしょうか。後から振り返れば、切磋琢磨することで得られたものも多かったと思いますが、これからはもっと自由に、自分に合った道を見つけ、そのなかで一人の人間として自立して頂ければと思います。どうかこの先、自信を持って社会に踏み出してください。

ところで、皆さんの中には、４月から大学院に進学される方も少なくないと思います。高度化・複雑化した社会では、理系・文系を問わず、大学院で研究を通して専門分野の知識やスキルを深めることがますます重要になってきています。また、一度社会人になってから、自らの職業や生活に関連した具体的な問題意識を持って、働きながら大学院で学び直すことも特別なことではなくなりつつあります。香川大学においても２年前にスタートした文理融合型の「創発科学研究科」を始めとして、全部で５つの大学院または専門職大学院の研究科を設置し、さまざまな専門分野のニーズに対応しています。大学院のハードルが高い場合には、短期集中的に特定のテーマについて学ぶ「リカレント専門講座」も用意しています。人生百年時代と言われる長寿社会において、香川大学は同窓生が集う「思い出の場」としてだけでなく、生涯に渡ってさまざまに活用して頂ける「地域に根差した知の拠点」でありたいと願っています。

最後に、卒業生の皆様の前途を祝し、そして卒業生とそのご家族、関係者の皆様方のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、告辞とさせて頂きます。本日は誠におめでとうございます。

令和６年３月２４日

国立大学法人香川大学長

上田　夏生